

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年5月29日

【事業年度】 第38期(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

【会社名】 株式会社コープビル

【英訳名】 COOP BUILDING CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 田井忠榮

【本店の所在の場所】 新潟県長岡市台町2丁目8番35号

【電話番号】 (0258)37 1111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理統括部長 星野和之

【最寄りの連絡場所】 新潟県長岡市台町2丁目8番35号

【電話番号】 (0258)37 1111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理統括部長 星野和之

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

提出会社の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

回次	第34期	第35期	第36期	第37期	第38期
決算年月	2016年2月	2017年2月	2018年2月	2019年2月	2020年2月
売上高 (千円)	1,910,259	1,920,862	2,035,144	1,957,958	1,924,223
経常利益 (千円)	29,074	18,066	37,734	59,739	47,826
当期純利益又は当期純損失() (千円)	10,737	8,387	26,939	1,967,468	6,744
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)					
資本金 (千円)	4,204,100	4,204,100	100,000	100,000	100,000
発行済株式総数 (株)	420,410	420,410	420,410	420,410	420,410
純資産額 (千円)	3,809,105	3,817,492	3,844,431	1,876,963	1,883,707
総資産額 (千円)	4,293,723	4,181,100	4,161,674	2,186,596	2,273,776
1株当たり純資産額 (円)	9,060.45	9,080.40	9,144.48	4,464.60	4,480.64
1株当たり配当額 (円) (1株当たり中間配当額) (円)	()	()	()	()	()
1株当たり当期純利益又は当期純損失() (円)	25.54	19.95	64.07	4,679.88	16.04
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	88.7	91.3	92.3	85.8	82.8
自己資本利益率 (%)	0.3	0.2	0.7	68.7	0.3
株価収益率 (倍)					
配当性向 (%)					
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	158,032	140,018	197,066	189,201	124,550
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	63,525	43,237	129,385	143,215	135,252
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	98,596	89,503	44,379	4,379	3,071
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	57,814	65,091	88,393	129,999	116,225
従業員数 (名)	158 (90)	165 (80)	165 (81)	160 (82)	161 (86)
株主総利回り (%) (比較指標:) (%)	()	()	()	()	()
最高株価 (円)					
最低株価 (円)					

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 当社は、連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。

3 持分法を適用した場合の投資利益につきましては、持分法を適用する関連会社が無いため、該当事項ありません。

4 第36期の資本の減少は、減資によるものであります。

- 5 第34期、第35期、第36期、第38期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第37期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失が計上されており、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 6 株価収益率、株主総利回り、比較指標、最高株価及び最低株価については、当社は非上場、非登録でありますので記載しておりません。
- 7 従業員数欄の()内の数字は外数で臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
- 8 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第38期の期首から適用しており、第37期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【沿革】

1982年9月	資本金2億円をもって株式会社コーポビルを設立
1984年11月	地下1階、地上12階建て「ホテルニューオータニ長岡」の名称にて開業
1985年12月	国際観光ホテル政府登録認可
1986年6月	鉄板焼きレストラン「ゲストハウス悠」オープン
1986年11月	テナント「メルクール」パート オープン
1987年3月	テナント「メルクール」グランドオープン
1987年3月	直営物販店舗「トラサルディ」オープン
1988年2月	直営物販店舗「クリスチャン・ディオール」オープン
1989年10月	駐車場の運営を開始
1998年3月	直営物販店舗「クリスチャン・ディオール」から「ランファイエ」に店名を変更
1999年3月	長岡市農協「パストラル部門」の料理請負を開始
1999年5月	直営物販店舗「ランファイエ」閉店
1999年11月	カフェテリアレストラン「カフェ・ド・フー」オープン
2001年3月	テナント名称変更「メルクール」から「パティオモール」
2002年8月	直営物販店舗「トラサルディ」閉店
2004年9月	越後ながおか農協「葬祭センター」の調理調製、料飲サービス請負業務を開始
2005年10月	長岡中央総合病院内レストラン「オアシス」の営業を開始
2007年4月	リバーサイド千秋アピタ長岡店内にフードコート「ホリゾンピット」オープン
2007年11月	テナント入店に伴い、「カフェ・ド・フー」閉店
2009年5月	リバーサイド千秋アピタ長岡店内のフードコート「ホリゾンピット」閉店
2016年11月	長岡中央総合病院内にコンビニエンスストア「ファミリーマート」オープン

3 【事業の内容】

当社は、越後ながおか農業協同組合より材料等の購入・不動産の賃借・資金の借入を行い、また同組合パストラル部門の調理調製及び葬祭センター部門の調理調製、料飲サービスを受託。また長岡中央総合病院内にレストラン1店舗を運営し、ホテル営業及び貸店舗並びにそれらに附帯する業務のホテル事業とコンビニエンスストア1店舗を運営するコンビニエンスストア事業を主な事業としております。

事業の系統図は、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有(被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
(親会社) 越後ながおか 農業協同組合	新潟県 長岡市	5,379,779	信用、共済、 購買、販売等の 協同組合事業		41.2 (0.1)	調理調製・料飲サービス業 務の受託 不動産の賃借 材料等の仕入 資金の借入(運転資金) 役員の兼任(2人)

(注) 1 議決権の被所有割合欄の()内は、緊密な者等の所有割合で外数であります。

2 上記、親会社は、有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社ではありません。

3 上記、親会社の持分は、100分の50以下であります、実質的に支配しているため親会社としております。

5 【従業員の状況】

(1) 従業員数、平均年齢、平均勤続年数及び平均年間給与

2020年2月29日現在			
従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
161(86)	42.1	15.4	3,241

セグメントの名称	従業員数(名)
ホテル事業	156(82)
コンビニエンスストア事業	5(4)
合計	161(86)

(注) 1 従業員は就業人員であります。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3 従業員数欄の()内の数字は外数で臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(2) 労働組合の状況

当社は労働組合を組織しておりません。

なお、労使関係は円満に推移しており、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

今後のわが国経済は、米中貿易摩擦の長期化、終息の見通しが立たない新型肺炎の影響による国際経済の不確実性や為替変動の懸念など、先行きの不透明感がさらに強まる予想されます。

このような環境の中、当社におきましては、新型肺炎終息後の雇用・所得環境の改善を前提として景気の回復が必ずや期待できるものとし、着実且つグローバルな客室販売戦略の展開による訪日外国人の利用回復を強力に推し進めるなど、売上の最大化に全力をあげて取り組んでまいります。

また、話題性の高いディナーシャーをはじめ、集客力の高い魅力的なイベントを企画するとともにグループホテルのメリットを活かした最先端料理を提供してまいります。さらに、スケールメリットや多様性を駆使した婚礼の受け入れなど、地域一番店ホテルとしてのポテンシャルを発揮し、より一層利益の向上に向け経営努力を続けてまいります。

一方、設備面におきましては、引き続き年次的な客室リニューアルや外壁補強工事、H A C C Pによる衛生管理の導入など持続可能性を基調とするホテルインフラの整備を推し進めてまいります。

また、働き方改革や業務全般の効率化による諸経費の節減に努めるとともに、一層の付加価値向上に向けて、E S G(環境・社会・ガバナンス)推進を通じたS D G sの達成に積極的に取り組み、「皆様のお役に立つホテル」をミッションとする企業として、今後とも社会的責任を果たしてまいります。

2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

当社の経営成績及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには、海外経済及び国際経済の動向や、日本経済の景気動向の悪化による法人関連需要ならびに個人消費の減少、同業他社との競争激化に伴う収益悪化、大規模な自然災害、B S E、S A R S、鳥インフルエンザの発生やテロ行為等による社会的混乱及び直近の新型コロナウィルスの感染拡大による利用者の減少等により、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当事業年度における当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当事業年度におけるわが国経済は、堅調な企業収益と雇用環境の改善を背景に、緩やかな回復基調を示したものとの、相次ぐ自然災害、消費税率引き上げや新型肺炎の発生などにより下期では当初予想を大きく下振れる景気の停滞感が見られました。

世界経済におきましても、米中貿易摩擦の長期化や英国のEU離脱などを背景とする不確実性の進展や新型肺炎の感染拡大の影響などにより、今後の景気の先行きは依然として不透明感が強まっています。

ホテル業界におきましても、12月期における訪日外客数が3,188万人と堅調に推移したものの、年明けの新型肺炎の感染拡大による宿泊需要の縮小をはじめ、会議宴会の自粛が重なるなど極めて厳しい経営環境に晒されております。

この結果、当事業年度の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

a. 財政状態

当事業年度末の総資産は、2,273,776千円となり、前事業年度末に比べ87,179千円増加しました。負債は、390,068千円となり、80,435千円増加し、純資産は、1,883,707千円となり、6,744千円増加しました。

b. 経営成績

当事業年度の売上高は1,924,223千円で前年対比98.3%となり、経常利益47,826千円（前年同期59,739千円）、当期純利益につきましては、6,744千円（前年同期は当期純損失1,967,468千円）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

（ホテル事業）

宿泊部門においては、顧客会社が堅調に推移した一方、個人予約や団体物件が大きく後退しました。また、自然災害や暖冬小雪などの影響により失注が重なり、さらに新型肺炎の感染拡大により営業収入は前年より減収となりました。

レストラン部門においては、開業35周年に合わせた多彩な催事やスイーツフェスタなどが話題を呼んだものの、宿泊客の影響等により、前年より減少となりました。

宴会部門は、一般宴会では失注件数が増加傾向となったものの、大型社葬や寺院関連の式典などの受注増で前年を上回りました。婚礼においても平均人数が増加したことで前年を上回り、営業収入は増加となりました。

外販事業部門では、やすらぎホールの葬祭宴会が件数・人数ともに減少に転じたことなどにより、営業収入は前年より減少となりました。

この結果、ホテル事業の売上高は1,751,324千円（前年同期1,782,772千円）、営業利益は29,881千円（前年同期34,933千円）となりました。

（コンビニエンスストア事業）

コンビニエンスストアは、売上高172,898千円（前年同期175,186千円）となり、費用の増加等もあり営業利益は1,993千円（前年同期6,804千円）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当事業年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動による資金流入、投資活動による資金流出、財務活動による資金流出はすべて前年より減少いたしました。その結果、当事業年度末の資金残高は前事業年度末に比べ13,773千円減少し、116,225千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度の営業活動により得られた資金は、減価償却費を源泉とする資金の収入等によるもので、前年同期と比べ64,651千円減少し、124,550千円となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度の投資活動により使用した資金は有形固定資産の取得による支出等によるもので、前年同期と比べ7,963千円減少の135,252千円となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度の財務活動により使用した資金は、リース債務の返済による支出によるもので、前年同期と比べ1,307千円減少の3,071千円となりました。

生産、受注及び販売の状況

（ホテル事業）

a. 収容能力及び収容実績

区分	第37期 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)				第38期 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)			
	収容能力	収容実績	利用率	一日平均	収容能力	収容実績	利用率	一日平均
客室	64,970室	43,117室	66.4%	118室	61,188室	40,844室	66.8%	112室
食堂	89,425人	102,192人	1.1回	280人	90,742人	93,451人	1.0回	255人
宴会	259,150人	123,732人	0.5回	339人	259,860人	124,650人	0.5回	341人

（注） 収容能力は、営業期間の客室数及び椅子席として算出した。

当期における宿泊客の割合及び食堂、宴会の利用客数を示すと次のとおりである。

内訳	第37期 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)		比率(%)		第38期 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)		比率(%)	
	利用客数(人)	宿泊	計	利用客数(人)	宿泊	計	利用客数(人)	宿泊
宿泊外人客	10,068	19.0	3.6	9,841	19.6	3.7	9,841	19.6
宿泊邦人客	42,825	81.0	15.4	40,344	80.4	15.0	40,344	80.4
小計	52,893	100.0	19.0	50,185	100.0	18.7	50,185	100.0
食堂客	102,192		36.6	93,451		34.8	93,451	
宴会客	123,732		44.4	124,650		46.5	124,650	
計	278,817		100.0	268,286		100.0	268,286	

b. 収入実績

最近2事業年度の売上高

内容	第37期 (2018年3月1日～2019年2月28日)	第38期 (2019年3月1日～2020年2月29日)
	金額(千円)	金額(千円)
室料収入	342,067	331,211
料理収入	733,540	702,072
飲料収入	216,151	202,389
サービス料収入	118,113	114,172
その他の収入	314,973	342,733
貸店舗収入	57,926	58,746
合計	1,782,772	1,751,324

- (注) 1 その他の収入のうち主なものは宴会雑収入、宴会室料、外販事業収入等であります。
 2 上記の金額には消費税等を含んでおりません。
 3 第37期、第38期ともに売上高総額に対する割合が100分の10以上の相手先はありません。

料金(消費税込)

区分		料金
宿泊料金	1人室	14,300～15,400円
	2人室	22,000～24,200円
	特別室	35,200～154,000円
食事料金	朝食	2,200円より
	昼食	1,760円より
	夕食	3,300円より
	宴会	3,300円より

- (注) 上記の金額に別途サービス料10%が加算されます。

c. 主要材料の使用状況

区分	第37期 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)				第38期 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)		
	期首残高 (千円)	仕入高 (千円)	消費額 (千円)	期末残高 (千円)	仕入高 (千円)	消費額 (千円)	期末残高 (千円)
料理材料	9,193	247,532	248,554	8,172	241,535	239,910	9,797
飲料材料	6,234	58,371	58,879	5,726	55,004	55,251	5,479
合計	15,428	305,904	307,434	13,898	296,540	295,161	15,276

- (注) 上記、期首、期末残高及び仕入高並びに消費額の金額には消費税等は含んでおりません。

(コンビニエンスストア事業)

内容	第37期 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	第38期 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
	1店	1店
店舗数	175,186千円	172,898千円
店舗売上	356,485人	355,379人
客数	491円	486円
単価		

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。この財務諸表の作成にあたっては、当事業年度における財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を与えるような見積り、予測を必要としております。当社は過去の実績値や状況を踏まえ合理的と判断される前提に基づき、継続的に見積り、予測を行っております。そのため実際の結果は、見積りの特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

当事業年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 財政状態の分析

当事業年度末における資産の残高は、2,273,776千円（前事業年度末2,186,596千円）となり、87,179千円増加しました。うち流動資産は432,789千円（同419,980千円）と12,809千円増加、固定資産は1,840,986千円（同1,766,616千円）と74,370千円増加しました。流動資産増加は、主に現金及び預金、売掛金等が増加したものであります。

固定資産のうち、有形固定資産は1,788,688千円（同1,678,858千円）と109,830千円増加しました。

この増加の主な要因は、取得による増加と減価償却による減少によるものであります。

当事業年度末における負債の残高は、390,068千円（前事業年度末309,633千円）となり、80,435千円増加しました。うち流動負債は228,839千円（同145,302千円）と83,536千円増加、固定負債は161,229千円（同164,330千円）と3,101千円減少しました

流動負債の増加要因は、未払金、前受金等が増加したことによるものです。また固定負債の減少要因は、リース債務などが減少したことによるものであります。

当事業年度末における純資産の残高は1,883,707千円（同1,876,963千円）となり、6,744千円増加しました。

b. 経営成績の分析

当事業年度の売上高は1,924,223千円（前事業年度1,957,958千円）となり、33,735千円（前年比98.3%）減少しました。

費用面では、原価管理と諸経費の抑制に努めましたが、営業費用は1,892,348千円（前事業年度1,916,221千円）となり、23,873千円減少しました。

当事業年度の営業利益は31,874千円（同41,737千円）、経常利益は47,826千円（同59,739千円）、当期純利益6,744千円（前事業年度当期純損失1,967,468千円）となりました。

c. キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの分析については、「(1) 経営成績等の状況の概要、キャッシュ・フローの状況」の記載の通りであります。

d. 資本の財源及び資金の流動性

当社の主な資金需要は、仕入資金、人件費、販売費及び一般管理費等の営業経費に加えて、ホテル施設のリニューアルや維持更新投資であります。これらにつきましては、基本的に営業活動によるキャッシュ・フローや自己資金を充当しておりましたが、今後は状況に応じて借入等による資金調達で対応していくこととしております。

4 【経営上の重要な契約等】

(1) 営業に関する重要な契約内容

契約相手先	契約の内容	契約期間
株式会社ニュー・オータニ	運営指導契約 (ホテルの運営に伴う 指導・助言及びグ ループサービスの提 供)	2015年6月1日より5ヶ年とする。 尚、2020年6月1日以降の運営指導契約に際しては、 双方が事前協議の上、対処するものとする。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社は、ブランド価値のさらなる向上と競争力を高めるために計画的に設備投資をしております。

当事業年度の設備投資の主な内容は、ホテル事業で集客力の向上を図るため客室フロア改装等で179,228千円実施いたしましたが、コンビニエンスストア事業では特にありません。

なお、設備投資に係る所要資金は自己資金により賄いました。

(注) 「第3 設備の状況」に記載されている金額は、消費税等抜きで表示しております。

2 【主要な設備の状況】

提出会社

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	運搬具	土地 (面積m ²)	器具及び 備品	リース資産	合計	
ホテルニュー オータニ長岡 (長岡市)	ホテル事業	客室、レストラン、宴会場、貸 店舗、貸ホー ル、他	838,848	3,016	849,975 (8599.36)	79,926	2,120	1,773,887	156 (82)
ファミリーマー ト (長 岡市)	コンビニエン スストア事業	店舗	14,800					14,800	5 (4)

(注) 従業員数の()内の数字は、外数で臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着手 年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
			総 額 (千円)	既支払額 (千円)				
ホテルニュー オータニ長岡 (長岡市)	ホテル事業	7階 客室 フロア改装	65,571		自己資金 及び借入金	2020年 12月	2021年 2月	集客力の 向上
ホテルニュー オータニ長岡 (長岡市)	ホテル事業	8階 客室 フロア改装	61,529		自己資金 及び借入金	2021年 12月	2022年 2月	集客力の 向上
ホテルニュー オータニ長岡 (長岡市)	ホテル事業	9階 客室 フロア改装	65,571		自己資金 及び借入金	2022年 12月	2023年 2月	集客力の 向上

(注) 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項ありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	800,000
計	800,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2020年2月29日)	提出日現在 発行数(株) (2020年5月29日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	420,410	420,410	非上場	(注) 1、2
計	420,410	420,410		

(注) 1. 単元株制度を採用していないため、単元株式数はありません。

2. 株式の譲渡制限に関する規定は次の通りであります。

当社の発行する全部の株式について、会社法第107条第1項第1号に定める内容（いわゆる譲渡制限）を定めており、当該株式の譲渡又は取得について取締役会の承認を要する旨を定款第8条において定めてあります。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2017年12月4日		420,410	4,104,100	100,000		

(注) 2017年10月31日開催の臨時株主総会決議に基づき、資本金を4,104,100千円減少し、その他資本剰余金に振り替えてあります。効力発生日は、2017年12月4日であります。

(5) 【所有者別状況】

2020年2月29日現在

区分	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計
					個人以外	個人		
株主数 (人)				170			1,622	1,792
所有株式数 (株)				268,250			152,160	420,410
所有株式数 の割合(%)				63.8			36.2	100

(6) 【大株主の状況】

2020年2月29日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式 を除く。) の総数に対する 所有株式数 の割合(%)
越後ながおか農業協同組合	新潟県長岡市今朝白2 7 2 5	173,550	41.28
株式会社ニュー・オータニ	東京都千代田区紀尾井町4 1	22,000	5.23
大成建設株式会社	東京都新宿区西新宿1 2 5 1	17,000	4.04
ダイエープロビス株式会社	新潟県長岡市宝4 2 2 5	5,350	1.27
清水建設株式会社	東京都港区芝浦1 2 3	5,000	1.18
中興ビルディング株式会社	新潟県長岡市喜多町1 0 7 8 1	4,000	0.95
越後交通工業株式会社	新潟県長岡市千秋2 2 7 8 8 1	2,500	0.59
株式会社新潟県厚生事業協同公 社	新潟県長岡市北陽3 1 1	2,300	0.54
株式会社新潟県ビル管理協同公 社	新潟県長岡市中沢町518	2,250	0.53
大川マチ	新潟県長岡市	2,100	0.49
計		236,050	56.14

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年2月29日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 420,410	420,410	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
発行済株式総数	420,410		
総株主の議決権		420,410	

【自己株式等】

2020年2月29日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
計					

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3 【配当政策】

当社は、企業収益の状況を勘案しつつ、継続的かつ安定的な配当を行うことを基本方針としており企業体質の強化、今後の事業展開に備える為の内部留保の充実等を重視して決定したいと考えております。

当社は、期末配当の年1回の剰余金配当を行うことを基本方針としており、決定機関は、株主総会であります。

当期におきましては、剰余金の処分並びに利益の計上により、繰越利益剰余金がプラスに転じましたが、内部留保は依然僅少であり、総合的に勘案の上で慎重に検討いたしました結果、誠に遺憾ながら当期の配当につきましては見送りさせていただきます。

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

(コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

当社は、経営の透明性、公正性を図ることにより、株主をはじめとするすべてのステークホルダーから高い信用を得ることが重要であると認識し、企業におけるコーポレート・ガバナンスを経営における重要課題と捉えております。

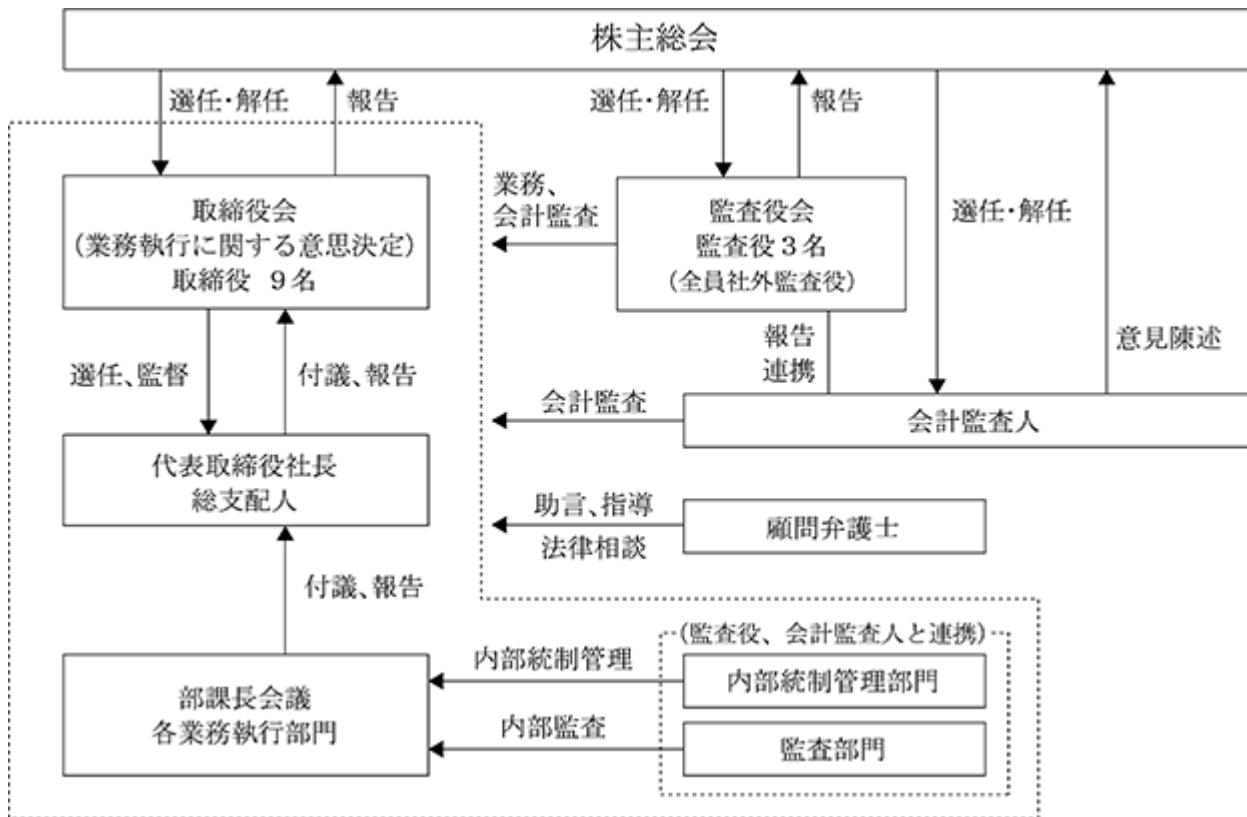
1. 会社の機関の内容及び内部統制システム整備の状況等

会社機関の内容

当社の取締役会は、提出日現在、取締役9名（うち社外取締役2名）の体制をとっております。取締役会は原則として3ヶ月に1回以上の定例取締役会のほか、必要に応じて機動的な臨時取締役会を開催し、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに経営の監督機能の強化に努めています。

監査役会は、提出日現在、3名（うち常勤監査役1名）で構成されており、全員社外監査役であり、定時の取締役会に出席するほか、必要に応じ代表取締役社長、総支配人他との意見交換の場を持つなど、コンプライアンスと内部統制の充実強化を図っております。

当社の各機関及び組織の関連につきましては、提出日現在、下図の通りであります。



内部統制システムの整備状況

コンプライアンス(法務全般)、情報セキュリティ、安全・衛生リスク対策ならびにこれらに関わる人材育成(啓発活動)を統括する内部統制管理室(1名)を置き、いっそうの内部統制体制の盤石化に努めています。

2. リスク管理体制の整備の状況

リスク管理に関する事項については、ニューオータニグループの定める「リスク管理方針」に則して、情報セキュリティ、食品安全、火災や自然災害ならびに反社会的勢力等に関するリスク対策をホテルの最重要課題と捉え、内部統制管理室・総務部門とニューオータニ本部の専門部署が連携してリスクの予防策および発生時の対応策等について適切に判断決定しております。特に災害リスクについては、その発生に備えて毎期2回の防災訓練を実施し、食の安全確保に関しては、ニューオータニグループの定める「食品の管理等に関する基本方針」「食中毒の予防に関するガイドライン」および「食物アレルギーへの対応に関するガイドライン」等に準拠し、関係機関と連携して食の安全性確保を図っております。また、国際的な犯罪・テロ組織を含む反社会的勢力等のリスクに関しては、同グループの定める「反社会的勢力に対する基本方針」に準拠し、関係機関と連携して適切な措置を講ずるよう努めています。

3. 役員報酬の内容

取締役の年間報酬	2,859千円(うち社外取締役 2名 699千円)
監査役の年間報酬	1,499千円(うち社外監査役 4名 1,499千円)

4. 取締役の定数

当社は取締役員数を10名以内と定款で定めてあります。

5. 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款で定めてあります。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性12名 女性 0名 (役員のうち女性の比率 0%)

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数(株)
代表取締役 社長	田 井 忠 榮	1940年9月9日生	1991年4月 1999年5月 2003年4月 2005年4月 2008年6月 2010年5月 2011年5月	長岡市農協(現越後ながおか農協)理事 当社取締役 越後ながおか農協常務理事 同農協経営管理委員会会長 JA新潟中央会・連合会副会長 当社代表取締役会長兼社長 当社代表取締役社長(現任)	(注1)	860
取締役 総支配人	森 康 二	1957年9月10日生	1981年3月 1986年8月 2009年8月 2015年6月 2016年5月	(株)神戸ポートピアホテル入社 (株)ホテルニューオータニ(現(株)ニュー・オータニ)入社ホテルニューオータニ大阪配属 同宿泊部長 当社総支配人 当社取締役総支配人(現任)	(注1)	
取締役	野 口 剛	1955年7月10日生	1974年4月 2016年3月 2016年4月 2020年3月 2020年4月 2020年5月	長岡市役所入所 同退職 (公財)長岡市スポーツ協会専務理事 同退任 越後ながおか農協経営管理委員会会長(現任) 当社取締役(現任)	(注2)	
取締役	細 川 恒 一	1954年9月10日生	1977年4月 1993年8月 1996年5月 1996年6月 2007年5月 2007年6月	(株)中越興業入社 同社代表取締役(現任) 三島谷興産(株)取締役(現任) 中越環境開発(株)取締役(現任) 当社取締役(現任) 長岡商工会議所副会頭(現任)	(注1)	1,000
取締役	小 林 立 憲	1948年2月3日生	1970年11月 1994年8月 2000年8月 2004年9月 2007年5月 2011年12月 2013年5月 2019年2月	(株)新潟県厚生事業協同公社入社 同社取締役 同社常務取締役 同社取締役副社長 当社取締役 当社取締役退任 当社取締役(現任) (株)新潟県厚生事業協同公社相談役(現任)	(注1)	100
取締役	大川 日出野	1952年12月17日生	1971年7月 2012年4月 2012年5月 2019年6月 2020年4月 2020年5月	長岡市役所入所 同退職 農業自営 (株)日越土地管理センター常務取締役(現任) 越後ながおか農協経営管理委員(現任) 当社取締役(現任)	(注2)	100
取締役 副総支配人兼営業統括部長	細 野 秀 樹	1962年11月9日生	1985年4月 2013年3月 2015年5月 2015年6月 2017年3月	当社入社 当社営業部長 当社取締役営業部長 当社取締役副総支配人兼営業本部長 当社取締役副総支配人兼営業統括部長(現任)	(注1)	50

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役 管理統括 部長	星 野 和 之	1963年 1月 6日生	1981年 3月 1984年 8月 2016年 3月 2018年 3月 2018年 5月 (株)ホテルニューオータニ(現(株)ニュー・オータニ)入社 当社入社 当社営業部長 当社管理統括部長 当社取締役管理統括部長(現任)	(注 1)		50
取締役 総務部長	川 辺 和 也	1965年11月17日生	1984年 4月 2010年 2月 2016年 3月 2017年 9月 2019年 5月 長岡市農協(現越後ながおか農協) 入組 同総務課長 当社出向 当社総務部長 当社取締役総務部長(現任)	(注 1)		100
監査役	池 津 宏	1947年 9月 1日生	1966年 4月 1967年10月 1968年 3月 2011年 4月 2016年 5月 山田農機具商店入社 同店退社 農業自営(現任) 越後ながおか農協経営管理委員 当社監査役(現任)	(注 3)		50
監査役	北 村 敏 雄	1950年 3月20日生	1977年10月 1981年 3月 1989年12月 1990年 1月 1990年 3月 1991年10月 2000年 6月 2008年 9月 2010年 4月 2010年 5月 2011年 5月 2011年 6月 監査法人太田哲三事務所(現EY新日本有限責任監査法人)入所 公認会計士開業登録 太田昭和監査法人(現EY新日本有限責任監査法人)退所 公認会計士事務所開設(現任) 税理士登録 長岡市監査委員 当社会計監査人 信北越銀行社外監査役(現任) 長岡商工会議所副会頭(現任) 当社会計監査人退任 当社監査役(現任) 学校法人中越学園監事(現任)	(注 3)		
監査役	保 坂 英 夫	1959年 2月 2日生	1981年 4月 1987年 4月 1995年 4月 1996年 4月 1997年 8月 2010年 8月 2012年 5月 日本国有鉄道入社 日本国有鉄道清算事業団新潟支社 配属 清水会計事務所(清水晋税理士事務所)入所 清水会計事務所(清水一男税理士事務所)転属 保坂税理士事務所(現税理士法人ホサカ事務所)入所 税理士法人ホサカ事務所代表社員 (所長) (現任) 当社監査役(現任)	(注 3)		50
計						2,360

- (注) 1 2019年5月30日開催の定時株主総会から2年間であります。
 2 2020年5月28日開催の定時株主総会から1年間であります。
 3 2020年5月28日開催の定時株主総会から4年間であります。
 4 取締役細川恭一、小林立憲は、社外取締役であります。
 5 監査役池津宏、北村敏雄、保坂英夫は、社外監査役であります。

社外役員の状況

- 社外取締役である細川恭一氏は1,000株、小林立憲氏は100株の当社の株式を所有しております。
- 小林立憲氏が相談役である(株)新潟県厚生事業協同公社より、当社ヘリネン類が納入されております。
- 社外監査役である池津宏氏は50株、保坂英夫氏は50株の当社の株式を所有しております。
- 保坂英夫氏が代表社員である税理士法人ホサカ事務所と当社との間には顧問税理士契約を締結しております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

当社の監査役会は、社外監査役 3 名（常勤監査役 1 名）で構成させてあります。業務運営状況、リスク管理状況を検証しており、改善策の指示や提言を行うとともに、検証結果は取締役会に報告しております。

なお、社外監査役の北村敏雄氏は、公認会計士・税理士の資格を有し、財務及び会計に関する専門的知見を有しております。また社外監査役の保坂英夫氏は、税理士の資格を有し、財務及び会計に関する専門的知見を有しております。

内部監査の状況

当社の内部監査体制といったしましては、監査室（1名）を設置して、年間計画に基づき業務の遂行が各種法令、定款、諸規程及び経営計画などに準拠して実施されているかなど内部統制の視点から調査・検証し、指導・改善に向けた内部監査を行って経営者に報告を行っております。

また、必要に応じて監査役及び会計監査人と情報交換を行い連携することとしております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

EY新日本有限責任監査法人

b. 業務を執行した会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 五十嵐 朗

c. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士 2 名、その他の監査従事者 1 名であります。

d. 監査法人の選定方針と理由

当社の監査役会は、会計監査人も品質管理の状況、独立性及び専門性、監査の実施体制、監査報酬等を総合的に評価し、協議した結果、EY新日本有限責任監査法人を会計監査人に選定しております。

会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

e. 監査役及び監査役会による会計監査人の評価

当社の監査役及び監査役会は、上述会計監査人の選定方針に掲げた基準に基づく評価に加え、監査法人との定期的な情報交換等を通じて、経営者・監査役・経理部門等とのコミュニケーション、監査や不正リスクへの対応等が適切に行われているかという観点から会計監査人を総合的に評価しております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
9,000		10,000	

b . 監査公認会計士等と同一のネットワークに属する組織に対する報酬 (a. を除く)

該当事項はありません。

c . その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d . 監査報酬の決定方針

当社の事業規模、監査日数、業務の特性、同業他社との比較等を総合的に勘案して決定しております。

e . 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、過年度の監査計画における監査項目別、階層別監査時間の実績及び報酬額の推移並びに会計監査人の職務遂行状況を確認し、当会計年度の監査計画及び報酬等の妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬等について会社法第399号第1項の同意を行っている。

(4) 【役員の報酬等】

該当事項はありません。

(5) 【株式の保有状況】

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(2019年3月1日から2020年2月29日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

3 連結財務諸表について

当社は子会社を有しておりませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	309,999	316,225
売掛金	66,348	75,848
商品	3,971	4,019
原材料及び貯蔵品	19,033	20,547
前払費用	3,967	3,909
その他	17,024	12,575
貸倒引当金	365	338
流動資産合計	419,980	432,789
固定資産		
有形固定資産		
建物	6,213,073	6,285,564
減価償却累計額	5,443,377	5,440,685
建物(純額)	769,695	844,878
構築物	82,991	82,991
減価償却累計額	73,189	74,221
構築物(純額)	9,802	8,770
車両運搬具	28,486	30,090
減価償却累計額	27,391	27,073
車両運搬具(純額)	1,095	3,016
工具、器具及び備品	580,495	607,511
減価償却累計額	535,645	527,584
工具、器具及び備品(純額)	44,849	79,926
土地	849,973	849,975
リース資産	18,203	11,758
減価償却累計額	14,763	9,638
リース資産(純額)	3,440	2,120
有形固定資産合計	1,678,858	1,788,688
無形固定資産		
電話加入権	0	0
ソフトウエア	1,183	1,325
無形固定資産合計	1,183	1,325
投資その他の資産		
投資有価証券	100	100
関係会社出資金	2,700	2,700
繰延税金資産	83,030	47,427
その他	744	744
投資その他の資産合計	86,575	50,972
固定資産合計	1,766,616	1,840,986
資産合計	2,186,596	2,273,776

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	34,604	38,440
リース債務	3,071	3,071
未払金	2,905	66,226
未払費用	70,538	73,071
未払法人税等	1,145	2,290
未払消費税等	6,603	4,397
賞与引当金	8,777	9,028
前受金	9,916	19,252
預り金	7,741	13,061
流動負債合計	145,302	228,839
固定負債		
リース債務	3,071	-
退職給付引当金	80,573	79,747
長期預り保証金	80,685	81,481
固定負債合計	164,330	161,229
負債合計	309,633	390,068
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金		
その他資本剰余金	3,717,492	1,776,963
資本剰余金合計	3,717,492	1,776,963
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,940,529	6,744
利益剰余金合計	1,940,529	6,744
株主資本合計	1,876,963	1,883,707
純資産合計	1,876,963	1,883,707
負債純資産合計	2,186,596	2,273,776

【損益計算書】

(単位 : 千円)

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
売上高		
室料収入	342,067	331,211
料理収入	733,540	702,072
飲料収入	216,151	202,389
サービス料収入	118,113	114,172
その他の収入	490,160	515,631
貸店舗収入	57,926	58,746
売上高合計	1,957,958	1,924,223
営業費用		
料理材料費	226,376	218,085
飲料材料費	53,007	48,615
その他の原価	355,968	371,736
人件費	700,941	720,526
貸倒引当金繰入額	52	27
賞与引当金繰入額	8,777	9,028
退職給付費用	7,509	7,339
業務委託費	59,865	58,769
広告宣伝費	21,995	22,591
不動産賃借料	24,664	23,309
修繕費	34,276	51,679
水道光熱費	115,852	114,437
旅費交通費及び通信費	4,267	4,362
消耗品費	48,860	41,377
清掃費	23,025	23,161
租税公課	40,763	40,767
減価償却費	117,347	66,176
その他	72,774	70,409
営業費用合計	1,916,221	1,892,348
営業利益	41,737	31,874
営業外収益		
受取利息	11	20
受取配当金	27	27
原子力立地給付金収入	3,872	3,730
グループホテル派遣料収入	2,028	1,120
社員駐車場収入	3,939	3,875
テナント駐車場収入	1,610	2,147
受取補償金	1,925	447
雑収入	4,673	4,599
営業外収益合計	18,088	15,968
営業外費用		
雑損失	85	17
営業外費用合計	85	17
経常利益	59,739	47,826
特別損失		
固定資産除却損	1 16,187	1 3,189
減損損失	2 2,062,350	-
特別損失合計	2,078,538	3,189
税引前当期純利益又は税引前当期純損失()	2,018,799	44,636
法人税、住民税及び事業税	2,290	2,290
法人税等調整額	53,620	35,602
法人税等合計	51,330	37,892
当期純利益又は当期純損失()	1,967,468	6,744

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

(単位:千円)

資本金	株主資本				純資産合計	
	資本剰余金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計		
		その他資本剰余金	その他利益剰余金			
			繰越利益剰余金			
当期首残高	100,000	3,717,492	26,939	3,844,431	3,844,431	
当期変動額						
当期純損失()			1,967,468	1,967,468	1,967,468	
当期変動額合計			1,967,468	1,967,468	1,967,468	
当期末残高	100,000	3,717,492	1,940,529	1,876,963	1,876,963	

当事業年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

(単位:千円)

資本金	株主資本				純資産合計	
	資本剰余金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計		
		その他資本剰余金	その他利益剰余金			
			繰越利益剰余金			
当期首残高	100,000	3,717,492	1,940,529	1,876,963	1,876,963	
当期変動額						
欠損填補		1,940,529	1,940,529			
当期純利益			6,744	6,744	6,744	
当期変動額合計		1,940,529	1,947,273	6,744	6,744	
当期末残高	100,000	1,776,963	6,744	1,883,707	1,883,707	

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益又は税引前当期純損失()	2,018,799	44,636
減価償却費	117,347	66,176
減損損失	2,062,350	
貸倒引当金の増減額(は減少)	52	27
賞与引当金の増減額(は減少)	8,777	250
退職給付引当金の増減額(は減少)	6,924	825
有形固定資産除却損	16,187	3,078
受取利息及び受取配当金	39	48
解体費用		111
売上債権の増減額(は増加)	10,731	9,499
たな卸資産の増減額(は増加)	2,400	1,562
仕入債務の増減額(は減少)	9,529	3,836
未払消費税等の増減額(は減少)	8,052	2,205
その他	25,840	18,638
小計	200,239	122,560
利息及び配当金の受取額	39	48
法人税等の支払額	11,077	1,153
法人税等の還付額		3,094
営業活動によるキャッシュ・フロー	189,201	124,550
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	280,000	400,000
定期預金の払戻による収入	200,000	380,000
有形固定資産の取得による支出	47,416	115,246
有形固定資産の除却による支出	16,187	111
無形固定資産の取得による支出	650	660
預り保証金の返還による支出		1,774
預り保証金の受入による収入	1,038	2,540
投資活動によるキャッシュ・フロー	143,215	135,252
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	4,379	3,071
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,379	3,071
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	41,606	13,773
現金及び現金同等物の期首残高	88,393	129,999
現金及び現金同等物の期末残高	1 129,999	1 116,225

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のないもの 移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

商 品 売価還元法

貯蔵品 最終仕入原価法

3 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は、次のとおりであります。

建物 15年～39年

器具及び備品 3年～20年

無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用ソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れに備えるため、一般債権は貸倒実績率法により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込み額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

5 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少リスクしか負わない短期的な投資からなっております。

6 その他財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の処理方法

税抜方式を採用しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2018年3月30日）
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 2018年3月30日）

(1) 概要

- ステップ1：顧客との契約を識別する。
- ステップ2：契約における履行債務を識別する。
- ステップ3：取引価格を算定する。
- ステップ4：契約における履行債務に取引価格を分配する。
- ステップ5：履行債務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2023年2月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当財務諸表の作成時において評価中であります。

(会計方針の変更)

該当事項ありません。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」3,466千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」83,030千円に含めて表示しております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第3項から第5項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解（注8）（評価性引当額の合計額を除く。）及び同注解（注9）に記載された内容を追加しております。

ただし、当該内容のうち前会計年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取り扱いに従って記載しておりません。

(追加情報)

該当事項ありません。

(貸借対照表関係)

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため金融機関等2先と当座貸越契約を締結しております。

当事業年度末における当座貸越契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
当座貸越限度額	600,000千円	600,000千円
借入実行残高		
差引額	600,000千円	600,000千円

(損益計算書関係)

1 固定資産除却損の内訳は、下記のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
建物	0千円	3,078千円
構築物	0千円	
車両運搬具		0千円
機械及び装置	0千円	
工具、器具及び備品	0千円	0千円
解体費用	16,187千円	111千円
計	16,187千円	3,189千円

2 減損損失

前事業年度（自 2018年3月1日 至 2019年2月28日）

場所	用途	種類
新潟県長岡市	事業用資産（ホテル事業）	土地、建物等

当社は、原則として、事業用資産についてはセグメントを基準としてグルーピングを行っており、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

当事業年度において、土地の時価が著しく下落したことにより、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失（2,062,350千円）として特別損失に計上しました。その内訳は、土地1,052,037千円、建物963,167千円、その他47,145千円であります。

なお、当資産グループの回収可能額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを6%で割り引いて算定しております。

当事業年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）

該当事項はありません。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	420,410			420,410

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。

当事業年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	420,410			420,410

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
現金及び預金勘定	309,999千円	316,225千円
預金期間が3か月を超える定期預金	180,000千円	200,000千円
現金及び現金同等物	129,999千円	116,225千円

(リース取引関係)
所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容
有形固定資産
ホテル基幹システムなどあります。

リース資産の減価償却の方法
重要な会計方針「3 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社は、設備投資計画に照らして必要な資金(主に金融機関からの借入)を調達する方針です。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金及び未払費用は、そのほとんどが2ヶ月以内の支払期日であります。

ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後最長で1年後であります。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

当社は、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手元流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

2 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前事業年度(2019年2月28日)

	貸借対照表計上額	時価	差額
現金及び預金	309,999千円	309,999千円	

(注)金融商品の時価の算出方法

現金及び預金は、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によつております。

当事業年度(2020年2月29日)

	貸借対照表計上額	時価	差額
現金及び預金	316,225千円	316,225千円	

(注)金融商品の時価の算出方法

現金及び預金は、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によつております。

3 長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の決算日後の返済予定額

前事業年度(2019年2月28日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
リース債務	3,071	3,071				
合計	3,071	3,071				

当事業年度(2020年2月29日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
リース債務	3,071					
合計	3,071					

(有価証券関係)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

当社は、デリバティブ取引を全く行っておりませんので、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を設けており、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。また、確定拠出型の制度として特定退職金共済制度に加入しております。

2 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	(千円)	
	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
退職給付引当金の期首残高	87,497	80,573
退職給付費用	133	120
退職給付の支払額	7,057	946
退職給付引当金の期末残高	80,573	79,747

(2) 退職給付債務と貸借対照表に計上された退職給付引当金との調整表

	(千円)	
	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
非積立制度の退職給付債務	80,573	79,747
貸借対照表に計上された負債	80,573	79,747
退職給付引当金	80,573	79,747
貸借対照表に計上された負債	80,573	79,747

(3) 退職給付費用

	(千円)	
	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
簡便法で計算された退職給付費用	133	120
特定退職金共済掛金	7,376	7,219
計	7,509	7,339

3 確定拠出金制度

当社の確定拠出金制度への拠出額は、前事業年度（自 2018年3月1日 至 2019年2月28日）は7,376千円、当事業年度（自 2019年3月1日 至 2020年2月29日）は7,219千円であり、退職給付費用として処理しております。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	27,475千円	27,186千円
賞与引当金	2,992千円	3,077千円
一括償却資産	344千円	760千円
前売食券	121千円	68千円
長期前払費用	181千円	113千円
税務上の繰越欠損金 (注2)	398千円	19,181千円
減損損失	686,215千円	651,998千円
未払費用	340千円	
繰延税金資産 小計	718,070千円	702,386千円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注2)		19,181千円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額		635,777千円
評価性引当額 小計 (注1)	634,772千円	654,958千円
繰延税金資産 合計	83,298千円	47,427千円
繰延税金負債		
未収還付事業税	268千円	
繰延税金負債 合計	268千円	
繰延税金資産の純額	83,030千円	47,427千円

(注) 1. 評価性引当額の変動の主な要因は、税務上の繰越欠損金による評価性引当額の増加によるものです。

(注) 2. 税務上の繰越欠損金及び繰延税金資産の繰越期限別の金額

	(単位:千円)						
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金()						19,181	19,181
評価性引当額						19,181	19,181
繰延税金資産							

税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
法定実効税率		34.09%
(調整)		
住民税均等割等		5.13%
評価性引当額の増減		45.22%
その他		0.45%
税効果会計適用後の法人税等の負担率		84.89%

(注) 前事業年度は、税引前当期純損失が計上されているため記載を省略しております。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

金額の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前事業年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものである。

当社は、商品・サービス別に事業活動を行っており、「ホテル事業」、「コンビニエンスストア事業」の2つを報告セグメントとしております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算出方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、財務諸表作成のために採用している会計処理と概ね同一であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	財務諸表計上額 (注)2
	ホテル事業	コンビニエンス ストア事業	合計		
売上高 外 部 顧 客 へ の 売上高 セグメント間内部 売上高又は振替高	1,782,772	175,186	1,957,958		1,957,958
計	1,782,772	175,186	1,957,958		1,957,958
セグメント利益	34,933	6,804	41,737		41,737
セグメント資産	1,759,676	30,345	1,790,022	396,574	2,186,596
その他の項目 減価償却費 有形固定資産及び 無形資産の増加額	116,080	1,267	117,347		117,347
	47,534		47,534		47,534

(注)1 セグメント資産の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、その主なものは、現金及び預金等の管理部門による資産であります。

2 セグメント利益は、損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当事業年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものである。

当社は、商品・サービス別に事業活動を行っており、「ホテル事業」、「コンビニエンスストア事業」の2つを報告セグメントとしております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算出方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、財務諸表作成のために採用している会計処理と概ね同一であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	財務諸表計上額 (注)2
	ホテル事業	コンビニエンス ストア事業	合計		
売上高 外部顧客への売上高 セグメント間内部 売上高又は振替高	1,751,324	172,898	1,924,223		1,924,223
計	1,751,324	172,898	1,924,223		1,924,223
セグメント利益	29,881	1,993	31,874		31,874
セグメント資産	1,878,508	28,069	1,906,578	367,198	2,273,776
その他の項目 減価償却費 有形固定資産及び 無形資産の増加額	64,909 179,228	1,267	66,176 179,228		66,176 179,228

(注)1 セグメント資産の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、その主なものは、現金及び預金等の管理部門による資産であります。

2 セグメント利益は、損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前事業年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一のサービス区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当事業年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

1 製品及びサービスごとの情報

単一のサービス区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

(単位:千円)

	報告セグメント			全社・消去	合計
	ホテル事業	コンビニエンスストア事業	計		
減損損失	2,062,350		2,062,350		2,062,350

当事業年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(持分法損益等)

関連会社が無いため、該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等

金額の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(2) 財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等

該当事項はありません。

(3) 財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

該当事項はありません。

(4) 財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

越後ながおか農業協同組合（非上場）

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
1 株当たり純資産額	4,464.60円	4,480.64円
1 株当たり当期純利益又は 1 株当たり当期純損失()	4,679.88円	16.04円

- (注) 1 前事業年度の潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、1 株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。当事業年度の潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 2 1 株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
貸借対照表上の純資産額(千円)	1,876,963	1,883,707
普通株式に係る純資産額(千円)	1,876,963	1,883,707
普通株式の発行済株式数(株)	420,410	420,410

3 1 株当たり当期純利益又は 1 株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
損益計算書上の当期純利益又は当期純損失()(千円)	1,967,468	6,744
普通株式に係る当期純利益又は当期純損失()(千円)	1,967,468	6,744
普通株主に帰属しない金額の主要な内訳	該当事項ありません。	該当事項ありません。
普通株式の期中平均株式数(株)	420,410	420,410

(重要な後発事象)

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大の影響により、宿泊客の減少や宴会及び婚礼の延期もしくはキャンセルの発生が続き、自粛ムードが継続しております。

当該影響により、2020年度の当社の経営成績に重要な影響を及ぼすことが見込まれます。影響額については、提出日現在では合理的に算定することが困難であります。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)
(投資有価証券)		
その他有価証券		
株式(1銘柄)	45	100
計	45	100

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	6,213,073	133,059	3,078	6,285,564	5,440,685	54,798	844,878
構築物	82,991			82,991	74,221	1,031	8,770
車輌及び運搬具	28,486	2,727	0	30,090	27,073	805	3,016
器具及び備品	580,495	42,781	0	607,511	527,584	7,704	79,926
土地	849,975			849,975			849,975
リース資産	18,203			11,758	9,638	1,319	2,120
有形固定資産計	7,773,224	178,568	3,078	7,867,891	6,079,203	65,659	1,788,688
無形固定資産							
電話加入権	0			0			0
ソフトウェア	3,704	660		3,958	2,633	517	1,325
無形固定資産計	3,704	660		3,958	2,633	517	1,325

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	客室フロア改装	80,524千円
	エスカレーター	32,000千円
器具及び備品	客室フロア改装	14,754千円
	電話交換機	16,000千円

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金				
1年以内に返済予定の長期借入金				
1年以内に返済予定のリース債務	3,071	3,071		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)				
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	3,071			
その他有利子負債				
合計	6,143	3,071		

(注) リース債務については、リース総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を貸借対照表に計上しているため、「平均利率」を記載しておりません。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	365	338		365	338
賞与引当金	8,777	9,028	8,777		9,028

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	7,492
預金	
普通預金	108,732
定期預金	200,000
計	308,732
合計	316,225

ロ 売掛金

相手先	金額(千円)
越後ながおか農業協同組合 (パストラル長岡・葬祭センター)	14,452
北越カード株式会社	4,853
柄沢正三事務所	3,605
第四ジェーシービーカード株式会社	2,816
株式会社第四銀行	1,817
その他	48,303
合計	75,848

ハ 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円) (A)	当期発生高 (千円) (B)	当期回収高 (千円) (C)	当期末残高 (千円) (D)	回収率(%) $\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	滞留期間(日) $\frac{(A)+(D)}{2}$
					$\frac{(B)}{366}$
66,348	1,929,700	1,920,200	75,848	96.2	13.5

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

二 商品

区分	金額(千円)
販売商品	4,019

木 原材料及び貯蔵品

区分	金額(千円)
料理材料	9,797
飲料材料	5,479
その他	5,270
合計	20,547

流動負債

買掛金

区分	金額(千円)
株式会社アベフードサービス	7,929
株式会社長岡中央魚市場	3,011
株式会社ウオショク	2,712
合資会社美濃屋支店	2,280
株式会社三青	1,755
その他	20,751
合計	38,440

(3) 【その他】

該当事項ありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	3月1日から2月末日まで
定時株主総会	5月中
基準日	2月末日
株券の種類	1株券、10株券、50株券、100株券、200株券、500株券、1,000株券、5,000株券の8種類
剰余金の配当の基準日	2月末日
1単元の株式数	
株式の名義書換え	
取扱場所	新潟県長岡市台町2丁目8番35号 株式会社 コープビル 総務課
株主名簿管理人	現在設置なし
取次所	現在設置なし
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	印紙税相当額
単元未満株式の買取り	
取扱場所	
株主名簿管理人	
取次所	
買取手数料	
公告掲載方法	官報

	<p>2月末現在の株主に対し、「株主優待券」を次の基準により、年一回発行する。</p> <p>発行基準 株式50株に対して、宿泊・飲食の共通株主優待券を8枚発行。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>所有株式数</th><th>共通株主優待券</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50株</td><td>8枚</td></tr> <tr> <td>100株</td><td>16枚</td></tr> <tr> <td>200株</td><td>32枚</td></tr> <tr> <td>1,000株</td><td>160枚</td></tr> </tbody> </table> <p>(利用場所) ホテルニューオータニ長岡に限る</p>		所有株式数	共通株主優待券	50株	8枚	100株	16枚	200株	32枚	1,000株	160枚
所有株式数	共通株主優待券											
50株	8枚											
100株	16枚											
200株	32枚											
1,000株	160枚											
株主に対する特典	<p>宴会場割引</p> <p>飲食利用150,000円未満に対して大人1名様500円の割引</p> <p>飲食利用150,000円以上に対して10,000円の割引</p> <p>飲食利用500,000円以上に対して20,000円の割引</p> <p>有効期限 2021年2月末日</p>											
	<p>宿泊割引(1枚)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>スタンダードタイプ (5階~8階)</th><th>スペリアタイプ (9階~12階)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ツイン又はダブル</td><td>2名様利用 13,200円 1名様利用 8,900円</td><td>2名様利用 14,000円 1名様利用 9,400円</td></tr> <tr> <td>シングルルーム</td><td>8,000円</td><td>8,500円</td></tr> </tbody> </table> <p>1枚で5部屋又は5泊まで利用可能 朝食サービス</p> <p>有効期限 2021年2月末日 (適応除外日7月26日、8月1・2・3日、9月9・10日)</p>			スタンダードタイプ (5階~8階)	スペリアタイプ (9階~12階)	ツイン又はダブル	2名様利用 13,200円 1名様利用 8,900円	2名様利用 14,000円 1名様利用 9,400円	シングルルーム	8,000円	8,500円	
	スタンダードタイプ (5階~8階)	スペリアタイプ (9階~12階)										
ツイン又はダブル	2名様利用 13,200円 1名様利用 8,900円	2名様利用 14,000円 1名様利用 9,400円										
シングルルーム	8,000円	8,500円										
<p>飲食割引(1枚)</p> <p>直営レストラン・バーにて1回の飲食料金に対して10%割引 (1枚で10名様まで)</p> <p>有効期限 2021年2月末日</p>												
<p>婚礼(ご列席者15名様以上)</p> <p>ご紹介いただいた株主様へホテル利用券進呈</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ご列席人数</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15名~29名</td><td>20,000円</td></tr> <tr> <td>30名~59名</td><td>30,000円</td></tr> <tr> <td>60名以上</td><td>50,000円</td></tr> </tbody> </table> <p>ご利用いただくお客様へは、ご利用人数・ウェディングプランに応じて優待割引</p> <p>株主様本人ご利用の対しては特別優待割引</p> <p>有効期限 2021年2月末日</p>		ご列席人数	内容	15名~29名	20,000円	30名~59名	30,000円	60名以上	50,000円			
ご列席人数	内容											
15名~29名	20,000円											
30名~59名	30,000円											
60名以上	50,000円											
株式譲渡の制限	<p>本会社の株式を譲渡するのは、定款第8条により、取締役会の承認を要する。</p>											

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度 第37期(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)2019年5月31日関東財務局長に提出

(2) 半期報告書

事業年度 第38期中(自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)2019年11月29日関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

2020年5月29日

株式会社 コープビル
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 五十嵐 朗

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社コープビルの2019年3月1日から2020年2月29日までの第38期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社コープビルの2020年2月29日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象に含まれていません。